

## 【 関係者評価委員会を踏まえた総合評価 】

令和5年3月10日

- ◇ 昨年度の総合評価とは異なる様式に変更したため、昨年度の評価内容と単純比較をすることは難しい面もあるが、関係者評価委員からの評価平均点を見ると概ね良好であることがうかがえる。
- ◇ 関係者評価委員の評価で低かった項目は、9の食育の取り組み、12の保護者との諸連絡、13の環境整備や清掃についての3項目だった。この3項目については、反省と振り返りを行っていて、次年度の努力目標として、職員一丸となってその改善策や工夫すべき点を探り、共通理解の基に共通実践をしていくよう努めたい。  
保護者との連絡や連携については、今一層の担任と保護者とのコミュニケーションの機会を増やすことや環境整備や清掃の徹底については、新たな職員配置による人的措置等を工夫して、清掃の機会を増やすことを実施していきたい。
- ◇ 評価項目で5人中5人共に高評価をいただいた項目については、今後もその取り組みを継続して、次年度はこの評価の平均が90を上回るようにしていきたい。

## 【 関係者評価委員からの意見 】

- 今回の関係者評価委員会では、40分ほどの園内の見学が行われたので、いろいろな視点から園の施設や園児の様子、保育の在り方などを見ることができてとてもよい機会となり、大いに評価の参考になった。
- 数か月前の保育（遊んでいる姿）から今の保育（遊び混めている姿）に改善されていて、子どもの主体性に変化があり、遊びや保育の質が向上してきている。やらされていない保育や自発的な遊びが十分にできていて素晴らしい。ルールのある遊びがきちんとできている。  
保育者どうしの立ち位置、関わり方などのバランスよい。保育者の質が向上してきている。
- 家ではできない遊びをもらっていて、遊びの提供の仕方が素晴らしくありがたい。  
家でもよくいろいろな素材を使って想像しながらいろいろなものを作っている。園での遊びが見られる。園に行くことを楽しみにしていて、園での遊びや保育の良さの成果が出ていると思われる。
- 遊びが楽しいと思えることは子どもへの報酬であり、それが概ねできていて、子どもの姿から感じられる。
- ▲ 評価の項目は昨年度より若干見直しと修正を行ってあるが、今後は全体的に項目や問いの文言について検討をし直すことも考えてほしい。
- ▲ 園庭での立話が気になった。必要な話かもしれないが、光景として好ましくないのでは？
- ▲ あるクラスでの環境構成の工夫不足が感じられた。